

水の文化 和船が運んだ文化

水の文化 54 October 2016

特集 和船が運んだ文化

ミツカン水の文化センター



ミツカン水の文化センター

表紙：河口から3km上流のご神体「河内様(こおつさま)」を目指して紀州の古座(こざ)川を遡る「御舟(みふね)」。江戸時代に古式捕鯨で栄えた古座鯨方(くらかた)の鯨舟に装飾を施し、軍舟に見立てたもの。日没後は、かの岡本太郎が「これほど華やかでなまめかしいものなどは想像していなかった」と評した神秘的な行事「夜籠り神事」も行なわれる(撮影:鈴木拓也)

裏表紙上：尺八の音色にのせて歌われる江差追分。哀愁を帯びた調べが聴く者を惹きつける。唄は山本康子さん、尺八は山本滋さん。江差の割烹「味処(あじところ)やまもと」を夫婦で切り盛りしながら、江差追分も披露する(撮影:川本聖哉)

裏表紙下：かつて西海で行なわれた古式捕鯨「網取法」を再現したジオラマ(平戸市生月町博物館 島の館)。山見の知らせを受けて勢子舟が音を立てながら網に鯨を追い込み、網を被り動きの鈍った鯨を鉤で撃って仕留める(撮影:鈴木拓也)

